

子ども読書まつり～小中学生による読み聞かせ～

1 活動の概要

湯河原町立図書館では、毎年12月に、湯河原町子ども読書活動推進協議会の事業として「子ども読書まつり」を開催している。複数の催しを組み合わせることで“まつり”とし、年度ごとにその内容は変わっているが、その中で小中学生による読み聞かせを取り入れている。これは、年の近い「お兄さん」「お姉さん」が読んでくれることによって、聞いている子どもたちが、よりお話の世界を身近に感じながら楽しく本と図書館に親しみ、本への関心を高めていくことを目的としている。

2 活動の状況、実際

〇令和6年度の「子ども読書まつり」では、その中で「いつでもおはなし会」と銘打って、「読書まつり」開催中は文字通りいつでもおはなし会を楽しめるように、午前10時から午後3時までに計10回のおはなし会を実施した。読み手は、町内の読み聞かせボランティアが主体だが、小中学生からも募集し、小学生2人と中学生3人が参加してくれた。

【当日の様子】残念ながら事前の練習はほとんど出来なかったが、小中学生は落ち着いた様子で、参加者の反応をみながら、表情も豊かに読んでいた。読んでいる小中学生も、読み聞かせを聞いている子どもたちも、お話の世界に入り込み、とてもあたたかく和やかな雰囲気となった。
今後も、小中学生による読み聞かせを事業に取り入れてゆきたい。



3 参加者、指導者の声

参加者



- おにいさん、おねえさんの声ということで親しみやすかったです。
- 一家三人で読んでいる紙芝居がほほえましく楽しかった。

指導者



少し緊張していたようですが、参加者のあたたかいまなざしや、幼児の笑顔を見て、リラックスして演じていました。